



福岡県公立高校入試【社会・歴史大問 1】完全攻略プリント⑧

～15 年間（2012～2026 年）の出題データから導く「1 枚の重要資料から 5 問解く『一資料多問』トレーニング」～

【本教材のガイダンスと到達目標】

対象者： 福岡県公立高校入試を受験する中学 3 年生（および指導者・保護者）

特に向いている生徒：

- ・ 一問一答では「勘合」「金印」などの資料名は即答できるのに、目的や時代を問われると失点してしまう生徒
- ・ 資料の写真を見た瞬間に名前だけを思い浮かべ、設問が「相手国」や「機能」を求めていることを見落とす生徒
- ・ 歴史資料を「写真の暗記」として処理しており、当時の外交背景や社会関係と結びつけられない生徒
- ・ 記述問題で「何のために使われたのか」「この資料から何が分かるのか」を言葉に直せない生徒

このプリントでできるようになること：

1. 1 つの重要資料から「名称・関連用語」「時代・時期」「相手・品目」「背景・目的」「機能・意味」の 5 つの切り口を即座に引き出せるようになる。
2. 「資料の名前を答えて終わり」の勉強から脱却し、設問の多様な要求（時代判定・外交称号・目的や機能の記述）に正確に対応できるようになる。
3. 勘合、金印、蒙古襲来絵詞といった代表的な資料について、異なる角度から問われる問題に対応する練習ができる。
4. 福岡県公立入試の過去問で資料が出題された際、資料のどこに着目して考えるべきかを整理できるようになる。

推奨する使い方：

Step 1（理論の整理）： 第 1 章・第 2 章を読み、福岡県入試における「勘合」の 3 年度の出題推移から、なぜ 1 つの資料に対して複数の角度からの確認が必要なのかを理解する。

Step 2（自力演習）： 第 3 章の実戦定着ドリル（代表的な 3 資料×5 つの切り口＝全 15 問）を、解説を見ずに解く（目安時間：30 分）。

Step 3（照合の確認）： 解き終わった後、「今解いた小問が 5 つの切り口のどれに該当するか」を意識しながら解答解説を読む。

Step 4（誤答分析）： 答え合わせの際、各問の「誤答原因チェック欄」を使い、ミスの原因が「用語自体の未定着」なのか「設問要求の読み落とし」なのかを言語化する。

Step 5（過去問演習）： 第 6 章の「過去問演習 組み合わせ優先度表」に従い、実際の入試過去問で資料読解の感覚を定着させる。

【冒頭 1 分要約：15 年分析が導いた結論】

【結論】歴史の重要資料は、1 つの名称暗記ではなく「5 つの切り口（関連用語・時代・相手・目的・機能）」を整理することで、複数の問われ方に対応しやすくなる。

2012～2026 年度の 15 年間の出題データを分析すると、歴史大問 1 の資料問題には以下の特徴が確認できる。

1. 同一事項の多角的な出題：室町時代の「勘合」に関する出題は、2014 年、2018 年、2020 年の 3 年度で確認できる。しかし、問われた内容は「相手国の特定（2014）」「倭寇との識別目的の記述（2018）」「使用時期の判定と正式船証明の機能記述（2020）」と、年度によって要求される情報が異なっている。
2. 資料名当ての限界：「写真＝勘合」という一対一の暗記だけでは、相手国名や使用時期の記号選択、使用目的や仕組みを説明させる記述問題に対応できない。
3. 5 つの切り口の有効性：1 枚の資料に対して〔①資料名・関連用語〕〔②時代・時期〕〔③相手・関連地域〕〔④背景・目的〕〔⑤機能・意味〕の 5 項目を整理しておくことで、異なる角度の設問でも必要な情報を取り出しやすくなる。

★ 資料を見たら名前で止まるな。「誰と」「いつ」「何のために使い」「何を示しているか」の 5 つの切り口を引き出せ。

第 1 章：15 年間の出題データと「勘合」の変遷

1. 3 年度に見る「勘合」の出題実績（客観的事実）

福岡県公立高校入試の歴史大問 1 において、「勘合」に関わる出題は以下の通り、異なる要求処理で出題されている。

- **2014 年 問 2【相手国の特定】**：勘合の割符の写真をもとに、日明貿易において貿易を行った相手国（明）を特定させた。
- **2018 年 問 2(1)【使用目的の言語化】**：貿易船が勘合を持参した目的について、「倭寇」との識別に着目して説明させた。
- **2020 年 問 3【時期判定＋機能の記述】**：資料が用いられた時期（15 世紀）を判定させるとともに、割符の構造から「正式な貿易船であることを証明する機能」を記述させた。

2. なぜ「一資料多問」の視点が必要なのか

実際の入試問題を検証すると、同じ歴史資料・歴史事項であっても、名称以外の情報を問う出題が繰り返し確認できる。

実際の設問では、

- **外交の相手の特定**（2014 年）
- **制度の背景・目的の説明**（2018 年）
- **時代判定や具体的な仕組み（機能）の説明**（2020 年）

など、異なる情報が要求されている。したがって、1 つの資料を多角的に分解して攻略する訓練が不可欠となる。